

2020年度 第2回学校関係者評価委員会記録（案）

<開催概要>

- 【開催日時】 2020年11月11日（水） 18:30～20:00
- 【開催会場】 東京YMCA医療福祉専門学校（オンライン会議室）
- 【出席者】 山野 晴雄氏 吉野たけし氏 小泉 昌広氏
永井 純氏
- 【列席者】 小野 実氏 八尾 勝氏 林 恵子氏
倉持有希子氏 中浦俊一郎氏

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度第1回に続きオンライン（ZOOM）による開催となった。

I. YMCAデイリーメッセージ

YMCAデイリーメッセージの当該箇所を校長より読み上げた。

II. 議事

1. 前回記録の確認とまとめ

校長より2020年度第1回記録について資料をもとに説明され、委員による承認を受けた。

2. 今後の学校運営について

校長より2020年10月21日の介護福祉科演習授業の途中で体調不良で帰宅した学生が新型コロナウイルス感染陽性であったことに端を発した一連の事案について報告がなされた。

【小野氏】

陽性反応が学校へ報告されたのは10月24日（土）の朝、続いて当該学生の濃厚接触者であった2人目の陽性が判明したのが25日（日）の朝であった。このことにより、さらに6名の学生について濃厚接触の判定を受けることとなった。うち1名は学外、5名は学内での濃厚接触であった。26日（月）14時、学生に陽性反応があったことを関係者へメールにて発信した。27日（火）にホームページにて報告した。同日夕方に学外で濃厚接触のあった1名が陽性との報告を受けた。これにより、28日（水）から11月10日（火）までの2週間を学校閉鎖期間とした。結果として、残りの5名は陰性であり、校舎内での感染は起きていないということとなった。一連の対応の中で、情報発信の内容とタイミングについての課題が明らかとなった。報告を終えて、各委員より意見が出された。

【吉野委員】

報告を受けてYMCAの真摯で実直な教育の姿勢を感じる事ができた。本校においても「コロナ禍の中でどう学ぶか」は常に考えている。入学希望者を対象とした体験入学では、参加希望者に事前に手縫いのキットを郵送しておき、当日はリ

モートで指導したり、カメラの顔出しを求めないなど参加しやすい環境を整えている。11/7、8にはリモート学園祭を実施した。部外者を校舎に入れずに、学生だけでインスタグラムライブで配信した。

ファッションという分野ということもあるが、社会の変化のスピードは速い。大手と言われる会社が苦戦する一方で、「服を売るだけではない。社会インフラを担う店作り」という服飾企業が利益を上げている。社会に求められることが大切。

【永井委員】

情報発信について、即時性も重要だが同時に正確性が求められる。正確な情報がつかめていない時には、事実だけをシンプルに発信し、「詳細がわかり次第引き続き発信する」という対応が適切と思う。

感染予防について、病院では行動指針をマニュアル化している。外食は禁止、非常勤の医師の勤務は再開していない。勤務医についても複数の施設に出入りをしないように気を付けている。

一方で、新採用職員の募集も重要。病院ではオンラインによる「フェス」を企画し、Youtube による生動画配信を行う予定。ピンチをチャンスに変える努力を続ける。不安な時こそ信頼できる病院に行きたいと思ってもらうことが大切。

【山野委員】

消毒、換気、マスク着用など、基本的な予防策を講じながら「付き合っていく」という姿勢が求められている。長期にわたる対応が求められている状況だと思う。先行きは不透明。専門学校といえば職業教育・実習が特徴だと思うがオンラインでは難しい。しかし、現在学んでいる学生のため、工夫して行わなければならない。陽性だった学生については後遺症のないことを願いつつ、アフターケアをお願いしたい。そして、そうした学校の取り組みをぜひ高校に向けて発信してもらいたい。

続けて、各学科より実習への取り組みなどが報告された。

【倉持氏】

4月からオンライン授業を続けてきた中で、ようやく実技・演習の授業を始めようと思った矢先に学生に陽性反応者が出た。学校閉鎖は授業進行の上ではブレーキになってしまった。2年生の実習期間は半分程度になったが、やはり実習で学ぶものは大きい。コロナ禍で家族と会えない利用者のいい刺激になったのではないか。学内実習で教育支援計画を実施していく。

【中浦氏】

作業療法学科の実習では一期をオンライン、二期の期間のうち8割を病院、2割を学内実習とした。学内実習では「家族介入」を試みた。家族の困りごとを把握し、「当たり前前の生活」を続けられるために深く考えるきっかけとなった。

一方でオンラインの授業運営の難しさにも直面している。特に1年生との関係作りに苦慮している。

【八尾氏】

新型コロナウイルスの治療について、回復後2ヵ月経過した人たちへの調査が行われた。46%の人が何らかの後遺症を感じている、という結果だった。引き続き感染に気を付ける努力は継続しなければならない。

コロナ禍は「新しいスタイル」を身に付けるきっかけになった。多摩地区高等学校進路指導協議会ではオンラインによる総会が行われ、教員に向けたセミナーを行った。高校2年生に向けたオープンキャンパスオンラインも行われる予定。

【小泉委員】

自分自身は「オンライン」などの環境に対してなじみがない。しかし、ここで話し合われているような取り組みを聞き、自分の施設においてもチャレンジをしていくことを考えさせられた。有意義な話し合いに参加をさせてもらって感謝している。

3. その他

本日で今年度の委員会の日程は終了となる。

III. まとめ

校長より各委員へ感謝の意を伝えた。次年度は対面での委員会開催を祈念しつつ今年度の学校関係者評価委員会を終了した。

以上